

## 枚方市社会福祉施設地域貢献連絡会について

2019.2.5

わらしべ会

丸山正雄

枚方市社会福祉施設地域貢献連絡会は、枚方市内の社会福祉法人（60法人のうち58法人が加盟）が連携・協力して、地域への貢献や人権擁護の取り組みを進めている。事務局は、枚方市社会福祉協議会地域福祉課地域福祉推進グループ内にあり、高齢・保育・障害の各分野代表による役員会を構成している。枚方社協事務局より指名された発起人が発足前から計4度集まり、本会の目的や会則づくりをまとめ、2015年3月に発足。なお、役員の任期は2年で再任は妨げない。

現在の役員構成は以下の通りである。

### 1. 役員構成

会 長 亀井信昭（保育：ボランテ枚方 理事長）

副会長 川端秀吉（高齢：秀美福社会 理事長）

〃 丸山正雄（障害：わらしべ会 理事長）

事務局長 東山 健（高齢：大阪府母子寡婦福祉連合会 悠々の苑 施設長）

会計監査 田中信雄（保育：船橋福社会 理事長）

津田茂樹（障害：であい共生舎 理事長）

幹 事 川村洋子（高齢：枚方療育園津田荘 施設長）

〃 田中絹代（保育：銀河 理事長）

事務局 枚方市社会福祉協議会地域福祉課地域福祉推進グループ

オブザーバーとして、枚方市福祉部福祉指導監査課長が同席。

### 2. 設立趣旨

**枚方市社会福祉施設地域貢献連絡会設立総会（平成27年3月12日）開催案内より抜粋**

「少子・高齢化や社会経済状況の変化、福祉制度・施策の改正等により、社会福祉を取り巻く状況はめまぐるしく変化し、地域における福祉課題も複雑・多様化しています。このような状況の中、社会福祉施設を運営する社会福祉法人が種別を超えて連携し、今日的な福祉課題の解決に努めていくことが求められています。

この度、枚方市内で社会福祉施設を運営する社会福祉法人が連携・協力し、地域貢献事業や人権尊重の視点にたった各種事業の実施を通して、地域福祉の推進に寄与することを目的とした標記連絡会の設立総会を迎える運びとなりました」

### 3. 活動

- ①総会（毎年5月）及び交流会
- ②役員会（ほぼ毎月1回）
- ③研修会（年2回、内1回は人権研修）
- ④社協ふくしフェスティバル（枚方市社会福祉協議会主催）
- ⑤出張何でも相談会開催（年2回、イズミヤ枚方店）

大阪しあわせネットワークと地域貢献委員会（施設連絡会）との連携推進モデル事業「枚方市内全体の取り組みとして、いきいきネット相談支援センターにコミュニティソーシャルワーカー（CSW）を配置する一方、福祉施設の取り組みとして保育所のスマイルサポーター、高齢者施設のCSWといった人材を活用し、地域住民にとって身近な場所で制度の間の生活課題に対応する様々な福祉相談員の配置が進められてきた。

地域社会が抱える生活課題を効率的かつ効果的な取り組みに変えていくため、地域貢献連絡会と社会福祉協議会のつながりを活用し、各施設と福祉相談員が日々円滑に連携できる有機的な仕組みを検討してきた。アウトリーチ型支援として、イズミヤ枚方店にて出張相談をすることとなり、今年度2回目は1月30日保育、31日高齢、2月1日は障害の相談日とし、3日間で31件の相談があった。身近な場所で気軽に相談できる地域住民の目線に立ったアプローチが家庭内虐待や孤独死等の事件や事故を予防することができればこれに勝るものはない。

これまで別々に事業展開してきた保育・高齢・障害の福祉サービスが連携し、人権意識を高め、より人にやさしい環境づくりに寄与できる喜びを、一人でも多くの事業所スタッフに味わってもらいたいと思う。

また、昨年の本会総会後の交流会では、ある法人の理事長（保育）と同じテーブルで名刺交換した際、障害者の雇用についての相談を受けた。それを脇で聞いていた高齢施設の施設長がわらしべ会のイーウイットの話をし、わらしべ会は就職後のアフターケアが素晴らしく信頼できると宣伝してくれた。私が出る幕はなく、その話をイーウイットのスタッフに伝えると、ほどなく実習が始まり、就職した。真の信頼関係が構築されると、事態は良い方向に流れるということを実感した。日頃の努力が利用者の就職に結びついたという事例である。

本年秋に消費税が10%になる。たかが2%とはいえ、新たな生活困窮者が増加するであろう。また、児童虐待や高齢者・障がい者虐待の事例も増えると予測される。国の政策や国民の動向を察知し、人にやさしいネットワークづくりが本会の存在意義であろう。今後も微力ながら関わっていく。

以上